

2009年度 北海道大学 前期 世界史B

1

問 1

- A 季節風(モンスーン) B 『エリュトウラー海案内記』
C ダウ D マラッカ王国

問 2

- (ア) インド統治法
(イ) 国民会議派
(ウ) 非暴力・不服従

問 3

- (ア) ハラッパー (モエンジョ=ダーロ)

(イ) アーリヤ人

問 4 (3行)

インド洋交易の西の拠点として 10 世紀以降, マリンディ・ザンジバルなどの海港都市が栄え, 金・象牙・奴隷などの交易が盛んとなった。また, アラビア語の影響を受けたバントゥー語からスワヒリ語が発達し, 内陸部へも普及した。

問 5 (5行)

ガズナ朝に代わってゴール朝が侵攻し, 北インドの一部を支配した。13 世紀初めにはゴール朝の将軍アイバクがインドを拠点とした最初のイスラーム王朝である奴隷王朝を建設し, これ以降デリーを拠点に 5 つの王朝が興亡した。16 世紀にはティムールの子孫バーブルが北インドに進出し, 1526 年のパーニーパットの戦いでロディー朝に勝利してムガル帝国を築いた。

問 1

- (ア) 聖職者への課税
- (イ) ボニファティウス 8 世

問 2 (2 行)

毛織物生産がさかんでイギリスとの関係が深いフランドル地方に対し、集権化をもくろむフィリップ 6 世がイギリス勢力の一掃をはかり、対立した。

問 3

- (ア) ジャックリーの乱
- (イ) ワット=タイラーの乱

問 4

- (ア) 高等法院
- (イ) モンテスキュー

問 5 フロンドの乱

問 6

- (ア) コルベール
- (イ) 東インド会社

問 7

(ア) (1 行)
ユグノーに個人的信仰の自由および旧教徒とほぼ同等の権利を認めた。

(イ) (1 行)
商工業に携わる多くのユグノーが国外へ亡命したから。

問 8 (2 行)

インドのベンガル支配をめぐるフランス・ベンガル地方王侯連合軍とのブラッシーの戦いや、北米植民地をめぐるフレンチ=インディアン戦争でイギリスが圧勝した。

3

問 1

(ア) (1行)

太陽の子とされる王のもと絶大な宗教的権力による支配が行われた。

(イ) (1行)

キープとよばれる結縄による数量などの記録法が用いられた。

問 2 ピサロ

問 3

(ア)

耕地を3分して休閑地で地力を回復し、三年二毛作の輪作をする三圃制

(イ) (1行)

開放耕地制度と結びつき、共同作業の必要から村落共同体が確立した。

問 4 (3行)

ドイツ諸侯にほぼ完全な主権が承認されて、帝国の分裂状態は決定的となった。ますます神聖ローマ皇帝の地位は名目的な存在となり、ハプスブルク家の勢力が後退した。また、人口が激減してその後長く人口停滞がみられ、産業に打撃が与えられた。

問 5 (2行)

クロムウェルによる侵略でアイルランド農民はカトリックゆえに差別されて土地を没収され、イングランドの不在地主のもと小作人となり、貧困層におしやられた。

問 6

(ア) ニューフロンティア

(イ)

ソ連によるミサイル基地建設に際し、アメリカが海上封鎖して米ソ軍事衝突の危機となった。

